

1. トピックス ～ 世代や時代を通じた比較

今回のアンケート結果を踏まえ、成人世代を対象とした一般市民と若年層としての中学・高校生の比較、及び過去、同様のアンケートで実施した共通設問等の比較を通じ、世代や時代を通じた意識や意向の推移動向について確認する。

なお、これまでの市民アンケート調査の実施状況については、次のようになっている。

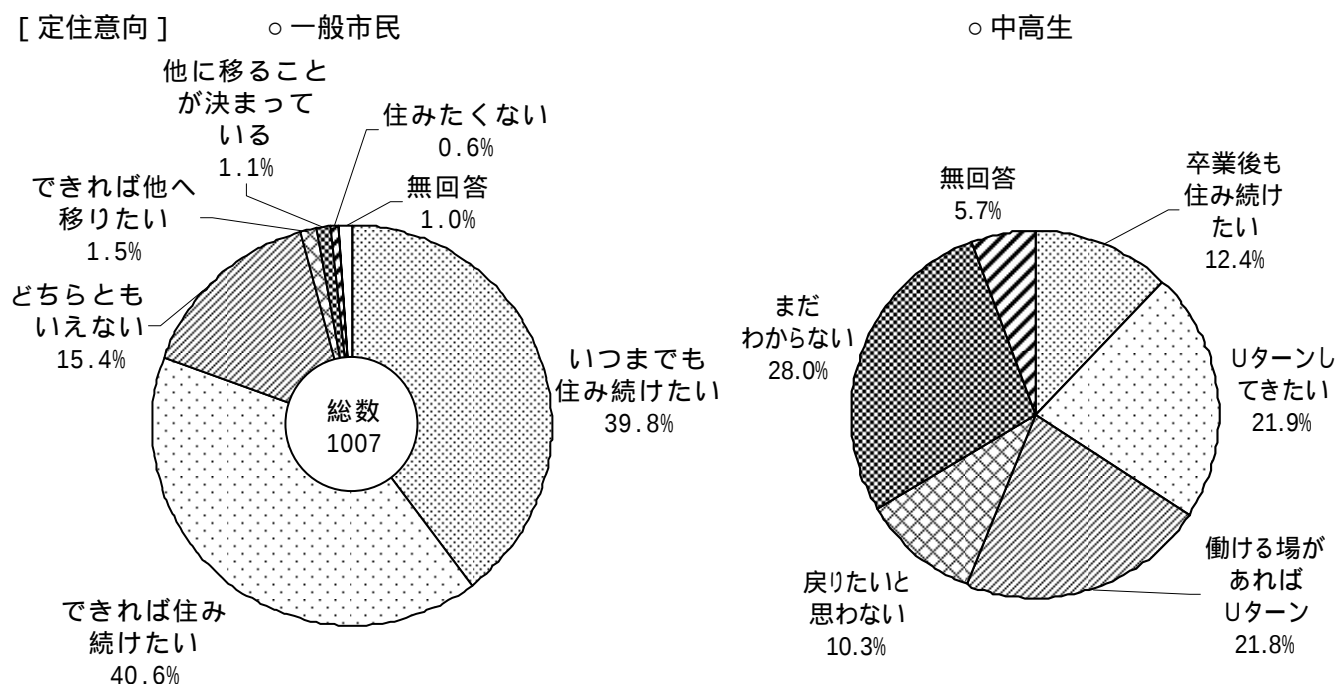
(過去の市民アンケート調査実施状況)

アンケート調査実施時期	調査実施の目的となる計画（カッコ内は調査対象）	
	総合計画	都市計画マスタープラン
平成21年度（今回）	○（一般市民・中高生）	○（一般市民・中高生）
平成17年度	○（一般市民）	-
平成11年度	○（一般市民）	-
平成9年度	-	○（一般市民・中高生）
平成5年度	○（一般市民）	-
昭和61年度	○（一般市民）	-

1-1. 「一般市民」と「中高生」の比較

20歳以上を対象とした一般市民向けアンケートと、中学・高校生向けアンケートでの、共通または類似の設問を比較すると、次のようになっている。

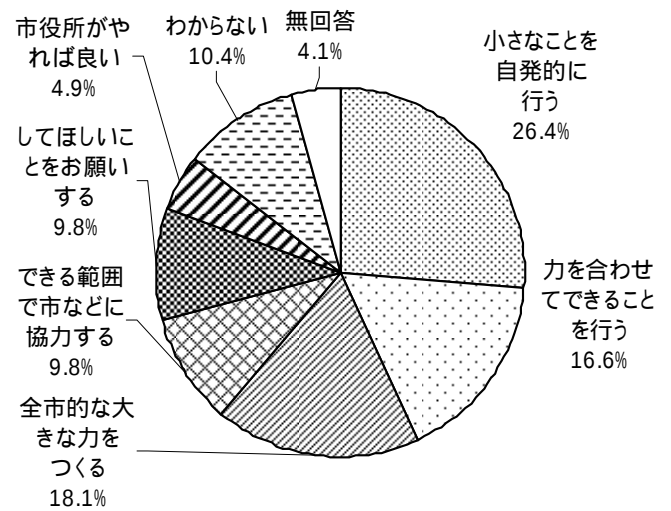
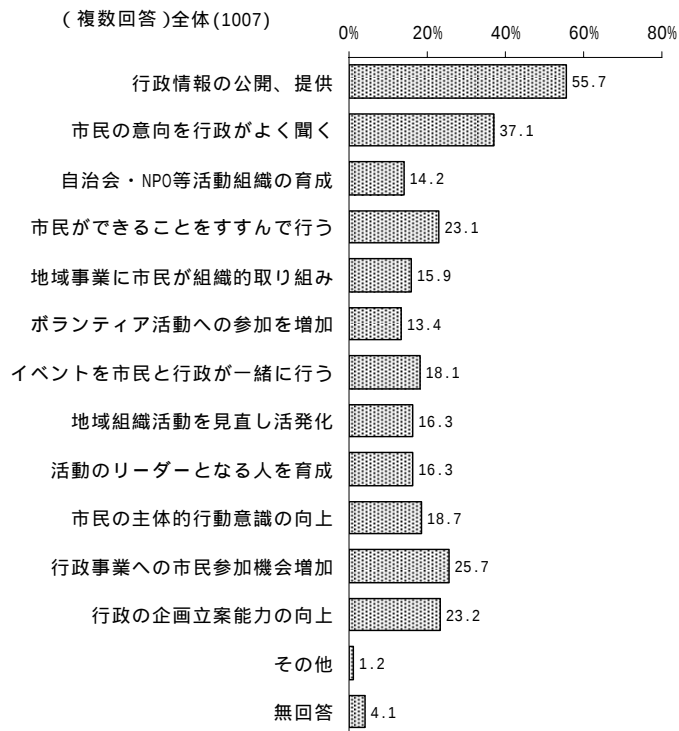
[定住意向]



[協働まちづくりに必要なこと]

○ 一般市民

○ 中高生

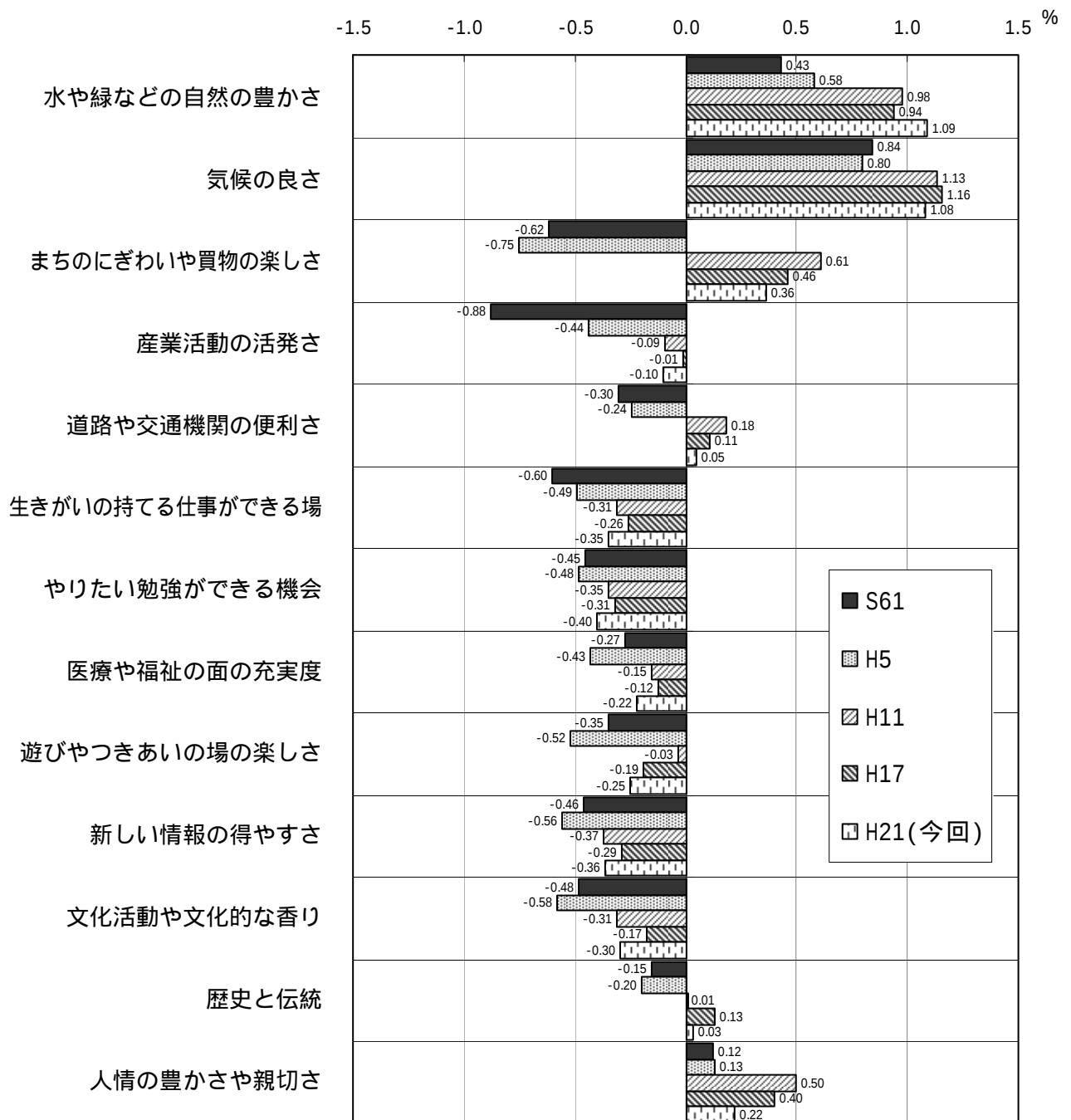


1 - 2 .「一般市民」の時系列比較

一般市民向けアンケートについて、過去に実施した同様の設問を比較すると、次のようになっている。

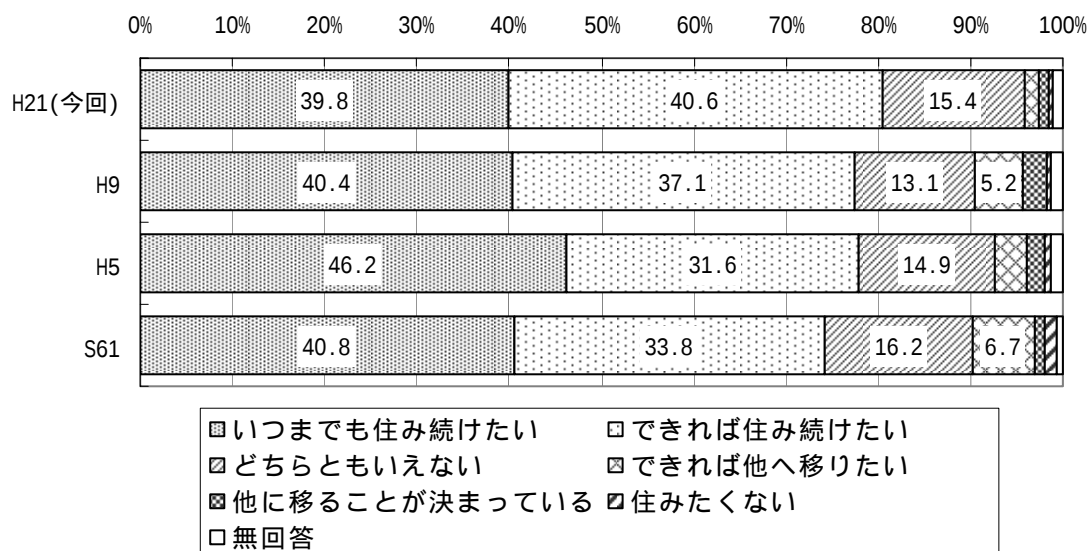
[下松市の魅力・満足度]

回答結果をもとに算出した＜評価点＞を比較したところ、「水や緑などの自然の豊かさ」はおおむね評価が高まる方向で推移している。また、「まちのにぎわいや買物の楽しさ」は、H11にマイナスからプラスに転じたものの、その後は減少方向での推移となっている。



[定住意向]

「いつまでも住み続けたい」は、平成5年にやや上昇したものの、その他の回ではおおむね4割台程度の割合が続いている。また、「できれば住み続けたい」まで含めた、定住意志を持つ人の割合で見ると、今回の結果が最も高い割合となっている。

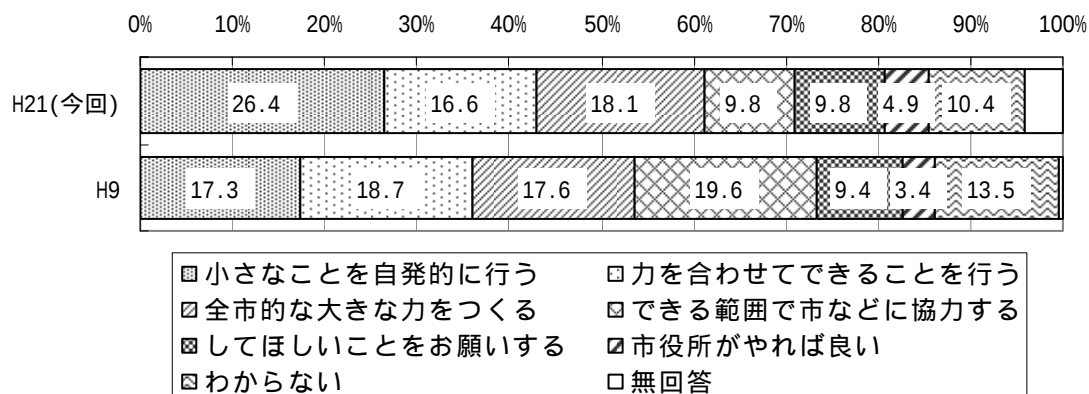


1 - 3 .「中高生」の時系列比較

一般市民向けアンケートについて、過去に実施した同様の設問を比較すると、次のようになっている。

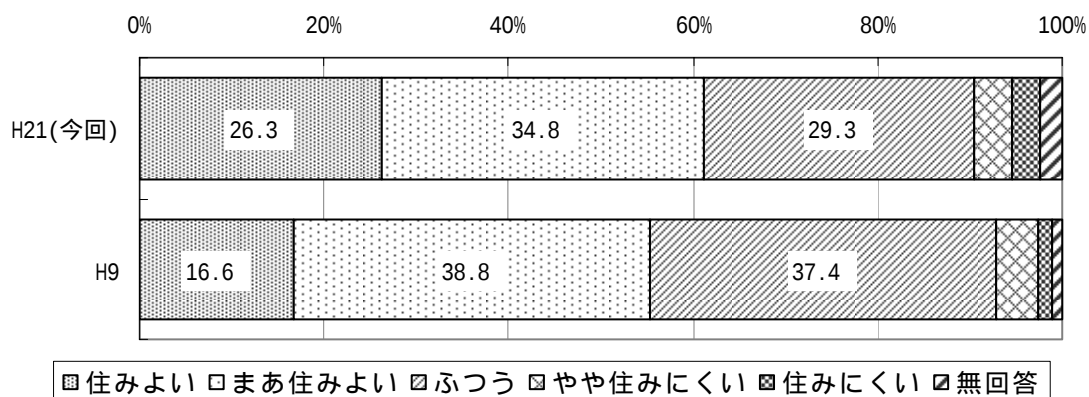
[まちづくりへの参加意思]

「小さなことを自発的に行う」が増加している。「できる範囲で市などに協力する」は減少しており、他の項目は大きな変化がみられないことから、より積極的な方向で推移していると見ることができる。



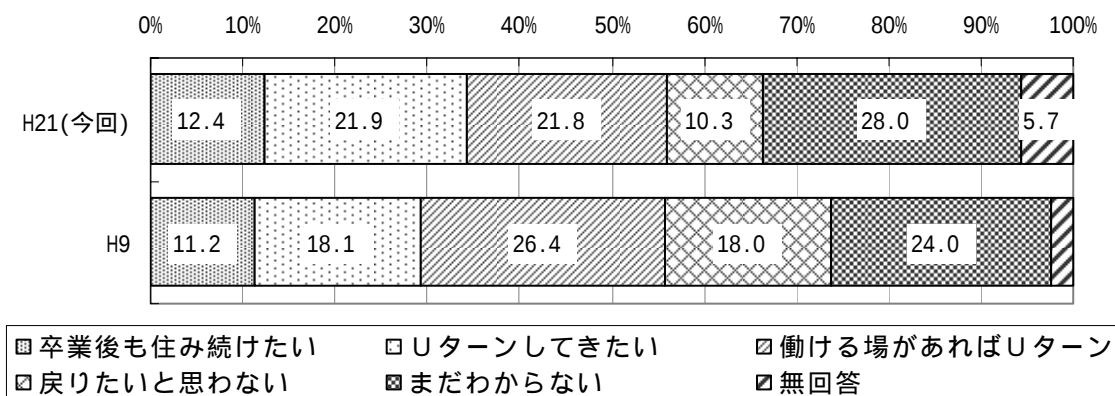
[下松市の住みよさ]

「住みよい」が増加している。「まあ住みよい」まで含めても、前回（H9）に比べ増加しており、住みよさ感は向上していると見ることができる。



[下松市への居住意思]

「働ける場があればＵターン」「戻りたいと思わない」が減少し「Ｕターンしてきたい」「まだわからない」が増加している。進学や就職を控え、Ｕターンに向けてのより積極的な意思や、明確な意思があらわしづらい状況などがあらわれている。



2. 調査結果の概要（まとめ）

本調査のアンケート構成内容、及びその回答傾向などについては、次のとおりである。

	傾向や特徴等	課題等
【一般市民】		
1. 回答者の属性 a. 性別 b. 年齢 c. 職業の有無 d. 市内居住の経緯 e. 居住地区 f. 土地所有の状況 g. 日常生活の主な交通手段	- 男性に比べ女性の方がやや多い回答者構成。 - H17国勢調査による年齢構成に比べ、やや高齢層の占める割合が高い回答者構成。 - 無職が4割台、有職者では会社員等が約3割の構成。 10年以上前の転入者層が4割台。 - 笠戸島、米川の両地区回答者の割合はそれぞれ2%程度ずつと少ない。 - 自ら運転する自動車が主な交通手段とする回答者が6割程度。	-
2. 日常生活の関心や地域との関わり 問1. 将来への不安 問2. 社会経済状況への関心事 問3. 地域活動・現在の参加程度 問4. 協働のしくみづくりに必要なこと	- 老後や将来の生活を不安視する傾向が強い。人間関係や生きがい・精神面ではやや安心感も。 - 将来への不安は若年層やパート・アルバイト等の層で特に強い。 「年金」「福祉」「健康・保健・医療」などが関心事のキーワード。 - 参加程度が高いのは「自治会・隣近所の活動」。参加希望が高いのは「趣味等のサークル活動」。 - 行政情報の提供、市民意向をよく聞くことなどが協働にあたって必要。行政期待型の協働意識か。	- 厳しい経済情勢等を背景に、暮らしそのものに対する不安が高まるなかでの対応が必要。 - 福祉・保健等の充実による安心感提供も重要。 - 受動的になりがちな協働意識から、自発的・主体的協働に向けた支援の充実。
3. 生活環境やまちづくりなどの評価 問5. 下松市の魅力・満足度 問6. 下松市への永住希望 問7-a. まちづくり施策の満足度 問7-b. 今後の施策重要度 問8. 主要事業・プロジェクトの評価	「気候の良さ」「自然の豊かさ」に高い魅力。「やりたい勉強」「生きがいの持てる仕事」の場所としてはやや不満傾向も。 「住み続けたい」派は全体の8割程度と高く、年齢が上がるにつれ高まる傾向。 - 上水道やごみ処理・リサイクルでは良い評価。雇用・就労・産業関連では厳しい評価も。 - 福祉や健康、雇用面での施策要望が高い。	- 古くから持ち得ていた自然や気候をあらためて下松市らしさとして認識・重視。 - 高い定住意向を保持し続けるための、暮らしの場としての総合力向上。 - 福祉環境等の充実。

	傾向や特徴等	課題等
	○ 主要事業も個別の認知度には差が見られる。成果の評価としてはおおむね良好な傾向。	
4．市内の公共施設 問9．公共施設整備のあり方 問9 - b．今後整備・充実が必要な施設	○ 公共施設は単なる整備充実ではなく、選別や順次更新、長寿命活用などに支持が集まる。 ○ 子育て支援や高齢者など、福祉関連施設へのニーズが高い。	○ 効果や効率などを十分踏まえた公共施設の整備充実。
5．都市としてのあり方、望ましい姿 問10．今後の市街地のあり方 問11．下松駅周辺地区のあり方 問12．笠戸島の活性化方策 問13．米川地区の活性化方策 問14．秩序ある市街地づくりの方策 問15．まちづくりへの協力	○ 拡大志向での開発等には消極的。集約化や効率化などを念頭においた市街地のあり方への支持が多くなる傾向。 ○ 下松駅前には「にぎわい」「公共交通拠点」としての要望が高い。 ○ 笠戸島は「観光」や「特産品振興」での活性化に支持。 ○ 米川地区は、「交流の仕組み」への要望が高く、定住条件整備への意見も多い。 ○ 秩序ある市街地づくりに向け、「幹線道路や公園等整備」「歴史・文化の保全」が必要との意見が多い。 ○ まちづくりへの協力については、「意見を述べた上での協力」との認識が約4割と主。個人負担では協力拒否との意見も2割程度。	○ 都市としての身の丈に応じた市街地や拠点形成、連携。 ○ 市内各地区の実情や特色を踏まえた振興。 ○ 道路や公園等「整備」ニーズと、歴史や文化等「保全」ニーズの両立・尊重による都市づくり。
6．都市基盤施設や環境整備 問16．道路網の整備方向 問17．公共交通の確保・整備の方策 問18．公園・緑地・緑化の方向 問19．景観の保全・創造への関心 問19 - b．保全・創造すべき景観	○ 「歩道など安全な道路」に対するニーズが高い。幹線や生活道路など、路線そのものよりも安全性を重視か。 ○ 「ダイヤや車両の改善促進」が公共交通に関する最も高い要望。 ○ 「スポーツや健康」が公園関連施設づくりのテーマとして高い要望。「身近な小公園・広場」も比較的多い。 ○ 景観に関心ある層は8割程度。 ○ 「公園・緑地・河川」「自然・田園」が、保全・創造すべき景観として上位に挙がる。	○ 道路は「安全性」の確保に対する強い要望への対応。 ○ スポーツ公園整備後もなお高い、スポーツや健康志向への対応。 ○ 景観に対する関心の高まりを背景として、自然やうるおい・オープンスペースなどを市の景観資源として捉え、保全・活用していく必要性。
7．産業の育成・振興 問20．今後の商業のあり方 問21．産業育成の方向 問22．自由意見	○ さらなる商業立地より、中小店振興、バランスある発展を望む意見が多い傾向。大規模店中心に充足感の高まりか。 ○ 「中小企業の強化」「集客・市内消費強化」が産業振興策として高い支持。	○ 商業環境への一定の充足感を踏まえたバランスある振興。 ○ 中小や消費促進型の産業振興。

	傾向や特徴等	課題等
【中・高校生】		
1．回答者の属性 ○ 中高別 問1．性別 ○ 中高・性別 問2．居住地区	○ 中学生・高校生はほぼ半々の構成。 ○ 男子が女子をやや上回る構成。 ○ 高校生の半数以上は市外在住者。笠戸島、米川の両地区の占める割合は少ない。	-
2．下松市の良さ 問3 - 1．下松市の良い点 問3 - 2．下松市の悪い点 問4．良くしたい点	○ 「海や山の自然」「店舗（大型店含む）」が下松の良い点として支持。 ○ 「交通の便」「清潔さ（ごみ・下水道等）」が悪い点として多く挙がる。 ○ 「海や山の自然」「店舗（大型店含む）」「交通の便」「清潔さ（ごみ・下水道等）」が、良くしたい点として多く挙がる。善し悪し踏まえ、さらに良くという志向か。	○ 自然や商業施設などを有効な地域資源として再認識。 ○ 交通利便性や清潔性などが課題克服の主要テーマ。
3．まちづくりや住みよさ 問5．まちづくりへの参加意思 問6．下松市の住みよさ 問7．都市基盤施設の整備方向 問8．保全整備すべき景観 問9．下松市への居住意思 問10．自由意見	○ 「小さなことを自発的に行う」とのまちづくり参加意思が多い。総じて自発的、主体的な意見が多くなる傾向。 ○ 住みよいと感じているのは全体の6割程度。3割は「ふつう」。住みにくいと感じているのは1割未満。 ○ 「スポーツ・健康の施設づくり」「安全に利用しやすい道路に」「川や海岸の水辺をきれいに」が都市基盤施設整備や保全の方向性として上位に。一般市民とほぼ同様の傾向。 ○ 「緑とうるおい」「にぎわい」が、保全整備すべき景観として高い支持。	○ 成人の一般市民層に比べ、自発的・主体的なまちづくりへの参加意思の尊重・育成。 ○ スポーツ・健康施設や安全な道路、水辺環境の清潔さなどが都市基盤関連の注目ポイント。 ○ 自然的空間や都市的活力など、景観要素として重視される点の活用。